

This is a newsletter from Shinshu University Global Education Center (GEC).

In case this email newsletter is unreadable, please try the online version

http://www.shinshu-u.ac.jp/institution/gec/about/publications/docs/newsletter_vol64.pdf

◆◆◆◆————— Vol.64.2017.12. —————◆◆◆◆

信州大学グローバル教育推進センター ニュースレター

Shinshu University Global Education Center (GEC) Newsletter

◆◆◆◆—————◆◆◆◆

発行: 信州大学グローバル教育推進センター(GEC)

<http://www.shinshu-u.ac.jp/institution/gec/>

[今号の目次]

- * ごあいさつ
- * 最近の出来事
- * 信大 NOW NO.107/ NO.108
- * スタッフ近況報告
グローバル教育推進センター 非常勤講師 天野弥生 先生
- * 生活ちょっとコラム

■□—————

□ ごあいさつ

みなさんこんにちは！

12月もうすぐ終わりですね。今年はどうのような1年でしたか？

今年は上野動物園でパンダの赤ちゃんが生まれ、日本はパンダフィーバー状態です。

手前味噌な話ですが、実は私も「シャンシャン」で応募をしまして、

名付け親、約5,000人中の1人となりました。

来年あたりに上野動物園へ行ってシャンシャンの顔を見る計画を立てております。

それでは、今日も元気にニュースをお伝えします！

■□—————

□ 最近の出来事

★グローバル教育推進センターが平成29年度放送公開講座に取り上げられました。

平成29年度放送公開講座「地球がキャンパス信州大学×グローバル」が放映されました。

留学制度や、学内の交流についての紹介、また、海外からの留学生の紹介もしております。

グローバル教育推進センターの先生方も出演しているので、

ぜひ下記のURLよりご覧ください。

信州大学動画チャンネル

<http://www.shinshu-u.ac.jp/movie/2017/08/69862.html>

★松本ロータリークラブ 第 28 回留学生による日本語スピーチコンテスト

11 月 17 日(金)、ホテルブエナビスタにて松本ロータリークラブ
第 28 回留学生による日本語スピーチコンテストが開催されました。
信州大学からは、人文科学研究科の交換留学生、王 傑さん
グローバル教育推進センターのフェドロヴァ ミレーナさん、
ナタシャ ヴァン ギルスさん、アレックス ボナヴェントウラさん、
経法学部のガンボルト ナムーンジャルガルさん、計 5 名が参加。
ナタシャ ヴァン ギルスさんが 3 位に輝きました。
おめでとうございます！

★第 34 回 青山教養セミナー

11 月 28 日(火)、生花の真派青山流の家元、上條香月先生のご厚意により
教養セミナーにご招待いただき、多くの留学生が参加しました。
セミナーはホテルブエナビスタの 3 階グランデで開催され、
松本大学総合経営学部教授／NHK 文化センター講師の
山根宏文先生によるお話「ヨーロッパの芸術散歩」や、
吉田玉佳先生による文楽などを楽しみました。

また、信州大学国際交流同窓会は新たにホームページと Facebook ページを作成
しました。ぜひ、アクセスして世界の各支部の様子、これまでの写真などを見て
みてください。

同窓会ホームページ <https://shinshualumni.wordpress.com/>

同窓会 Facebook ページ <https://www.facebook.com/shinshualumni.jp/>

■□
□ 信大 NOW No.107/No.108 のご案内

信州大学のニュース、歴史や人にまつわる記事、イベントや公開講座の紹介、
研究者の研究内容など、信州大学が良くわかる広報誌「信大 NOW」最新号の目
次を紹介します。

<No.107>

○平成 28 年度 環境教育海外研修報告
情熱の国 スペイン・バルセロナで独自の環境政策を学ぶ

○信州大学特許特集 信州 TLO 映像作成コラボ
STOP！砂塵被害「寒天搾りかすを活用した砂塵抑制資材」

○信州大学 地域防災減災センター
防災・減災について学ぼう！自作ラジオで FM 電波キャッチ！

○飛べ！信大生。
農学部 3 年増川千晶さん 商店街に古本屋を開店
カリカリボックス(仮)OPEN！

○信州大学放送公開講座
19 年間 123 回放送の歴史

○TOPICS

- ・信州大学発の海外拠点
「信州大学サテライト・オフィス in UPM」をマレーシアに開設
- ・信州大学とリクルートホールディングスが包括連携協定を締結
- ・「アジアで最もイノベティブな大学ランキング TOP75」表彰式が行われました
- ・信州大学と上川村及び南牧村が包括連携協定を締結
- ・地域住民代表と信州大学との懇談会を開催
- ・池上彰特任教授による平成 29 年度夏季集中講義
「現代世界史基礎」を開講

○「革新的無機結晶材料技術の産業実装による信州型地域イノベーション・エコシステム」記者会見
etc.

<No.108>

○繊維学部発“着る”ロボティックウェア
curara®ニューモデル取材レポート
進化したクララ、curara®4 発表！

○信州大学×理化学研究所
“理研”研究者が信大に集結
最先端研究の講義を開講！

○信州大学特許特集 Vol.2 信州 TLO 映像制作コラボ
高齢者食材に最適！酸素処理の里芋ペースト化

○玄米の機能性成分をそのまま保持した
「高圧加工米」
農林水産省「革新的技術開発・緊急展開事業

(先導プロジェクト)」採択。

○信州大学広報スタッフ会議 学外広報アドバイザー
FOCUS EYE Vol.④ 谷 浩志 氏

- TOPICS
- ・周年事業に伴う「信州大学校歌」歌詞募集について
- ・大学院総合医理工学研究科(博士課程)の設置について
記者会見を実施
- ・イノベーション・ジャパン 2017 に出展
- ・信州大学工学部と長野工科短期大学校及び
長野県南信工科短期大学校が連携協定を締結
- ・信州大学国際化推進海外協力教員
(コラボラティブ・プロフェッサー)を委嘱

○JST 産学共創プラットフォーム
共同研究推進プログラム(OPERA)採択
生理学的データ統合システムの構築による
生体埋込型・装着型のデバイス開発基盤の創出

etc.

全文は信州大学の公式 Web サイト上でデジタルパンフレットとして
公開されていますので、ぜひご覧ください。

↓↓↓

<http://www.shinshu-u.ac.jp/guidance/publication/#publication>

■□

□ スタッフ近況報告 GEC 非常勤講師 天野弥生 先生

今年も、年の瀬になってしまいました。この時期になると、新聞でも、テレビでも「今年の 10 大ニュース」というような特集が見られます。私事で恐縮ですが、私の 3 大ニュースで、この 1 年を振り返ってみたいと思います。

まず、第 3 位「初めての福岡・長崎旅行」です。松本から直行便があるのに福岡には行く機会がなく、初めて松本から飛び立ちました。長崎の平戸や大浦天主堂などで歴史の一端を垣間見、平和公園や原爆資料館では、戦争の愚かさと悲惨さを目の当たりにし平和な世界を心から願いました。

第 2 位は、「上高地集合ー学生時代にタイムスリップ」です。新緑の美しい 6 月に、大学時代の友人 4 人で卒業以来の 1 泊 2 日のトレッキング旅行をしました。大学時代「地質学研究会」に所属していた私たちは、よく合宿したりキャンプをしたりしてフィールドワークを楽しみました。学生時代のように

深夜バスでやってきた彼らと現地上高地で再会！おじさん2人とおばさん2人の旅は、学生時代にタイムスリップしたかのような格別な旅になりました。時を超えても、しばらく会っていなくても友人は宝物です。

第1位、「明日は何が起こるかわからない」夫が2月の修了発表の日に脳梗塞で緊急入院しました。幸い、治療が速やかに行われほとんど後遺症もなく元気になりましたが、予期せぬことはいつでも起こりうるのだと痛感しました。このことがあってから、「元気が1番！どうなっていたことか。」と健康に感謝する日々をおくっています。

平和と友人と健康の大切さをしっかり心にとどめた1年でした。皆さんは、どんな1年だったでしょうか。どうぞ、良いお年を！

■□
□ 生活ちょっとコラム ～年賀状～

日本には「年賀状」と呼ばれる、新年に親しい方へ挨拶状を送る文化があります。毎年この時期になると年賀状を書く人が多く、お店にはたくさんの年賀状が並び、それを買って求める方で溢れ返ります。

私も先日、やっと年賀状を投函できたところなのですが、ふと「年賀状の歴史ってどんなのだろう？」と気になり調べてみました。

その昔、奈良時代から新年の年始回りという年始の挨拶をする行事があり、平安時代頃より遠方などの人へ年始回りに変わるものとして、文書による年始挨拶が行われるようになりました。

最初は貴族などの限られた人のみの行事だったそうですが、時代が流れるにつれ年始の挨拶は一般的になったそうです。当時は公的郵便手段であった飛脚や使用人により文書が運ばれていましたが、1871年に郵便制度が確立し、1873年に郵便はがきが発行されると、年始の挨拶を簡潔に安価で送れるということで、年賀状の習慣が急速に広まっていきました。

当時の郵便局は受付局と配達局で2つの消印が押されており、「1月1日」の消印を押してもらうために多くの人が12月26日から1月1日を狙って年賀状を出したため、郵便局はパンク状態に陥りました。

そこで1899年、その対策として年賀郵便の特別取り扱いが始まり、年末に年賀状を郵便局に持ち込めば「1月1日」の消印で元旦以降に配達をしてくれるという仕組みになりました。今ではもうお馴染みですね。

その後時勢の悪化や太平洋戦争により自粛の時期はあったものの、終戦後の1948年には再開され、この年から年賀切手の図柄が干支にちなんだ郷土玩具のものになりました。

また1949年にはお年玉付き郵便はがき(年賀はがき)が初めて発行され大ヒットしました。1970年代になると年賀はがきに絵や文字を印刷する年賀状印刷が盛んになり、最近ではデジカメで撮った写真入りの年賀状を自宅のパソコンとプリンターで作成するスタイルが

